ロシアによる国後島周辺における射撃訓練予告について

出典:海上保安庁、ロシア国防省等)

- ▶ 7月22日、海上保安庁は、ロシア水路当局からの通報を受け、7月27日~8月27日の間、国後島南東における断続的な射撃訓練に伴う航行警報を発出 ※今次の発出海域においては、直近では本年2月28日~3月6日の間、射撃訓練に伴う航行警報発出
- ▶ 7月28日現在、訓練実施に関するロシア国防省側の発表なし。※一般報道においても、訓練実施に関する情報なし。

(出典:海上保安庁)

北海道本島

北方領土におけるロシア地上軍駐屯地



第18機関銃·砲兵師団司令部 第49機関銃·砲兵連隊 (瀬石 (tutā))

第46機関銃・砲兵連隊 (仁木城(にきしょろ))

北方領土駐留ロシア軍の砲兵・戦車部隊装備

多連装ロケット砲





多連装ロケット「グラド」(BM-21) 多連装ロケット「スメルチ」 (BM-30)

(122mm40連装、最大射程20km) ※新型 (9M521) の最大射程は 40kmとの指摘もある **全級ロケッド スクルナ」(BM-3**((300mm12連装、最大射程90km) ※新型(9M536)の最大射程は 120kmとの指摘もある

自走砲·戦車



自走カノン砲「ギアツィント」(2S5) (152mm砲、最大射程:約33km)



戦車「T-72B3」 (125mm滑腔砲)

NAVTEX

番号:21-1212 発表日時:2021年07月22日 21時

国後島南東、

国後馬用水。 射撃、7月27日、8月4日、11日、18日、25日、 毎日0900-2200、7月28日、29日、8月5日、 12日、19日、26日毎日0700-2200、7月30日、 8月6日、13日、20日、27日毎日0700-0900、 43-43-56N 145-33-45E 43-45-55N 145-34-11E 43-46-06N 145-41-45E 43-42-54N 145-41-38Eで囲まれる海面。

最近の北方四島周辺水域における射撃訓練の通報の例

今回の航行警報

18年10月17日~31日	択捉島沿岸
19年4月4日~12日	国後島沿岸
19年8月5日~10日	国後島沿岸
20年9月8日~26日	国後島沿岸
20年9月29日~10月17日	国後島沿岸
20年10月19日~11月1日	国後島沿岸
21年2月5日~27日	国後島沿岸
21年2月28日~3月6日	国後島沿岸
21年3月2日~5日	択捉島沿岸
21年6月21日~26日	択捉島沿岸、色丹島北方

駐留部隊

第18機関銃・砲兵師団が、主に着上陸防御を目的として択捉島及び国後島に駐留(同部隊の規模は約3,500人)

装備更新·施設整備

(肩書は全て当時)

- ・北方領土には、戦車、自走砲、多連装ロケット、地対空ミサイル、ヘリなどが配備
- ▶ 2011年2月、メドベージェフ大統領は、セルジュコフ国防相に対して、「クリル」諸島 (注)の装備の近代化に必要な措置を取るよう指示
- > 2011年3月、参謀本部が「クリル」 駐留部隊の装備更新に関する細部計画を策 定したとされる
- ▶ 2016年3月、ロシア国防省は「クリル」諸島駐留部隊に地対艦ミサイル「バスチオン」及び「バル」を年内に配備する予定であることを明らかにした
 - (同年11月、太平洋艦隊機関紙により、同地対艦ミサイル部隊が択捉島及び国後島で の任務にそれぞれ就いていることが判明)
- ▶ 2018年1月には択捉島の新民間空港が軍民共用化され、同年8月には同空港において戦闘機(Su-35×3機)が配備された旨伝えられている
- ▶ 2020年12月、ロシア国防省系メディアは択捉島及び国後島に地対空ミサイル(SAM)システム「S-300V4」(SA-23)を実戦配備した旨報じた。

(注)露側の呼称である「クリル」諸島は、北方領土及び千島列島を指す。

択捉島・国後島における主な装備



多目的戦闘機「Su-35















